



第70号

ともの療育プログラム? ----- 2P
ボランティアの人たち! ----- 3P
療育ってなんだろう? ----- 3P

SSTK

とも
通信

社会福祉法人
パーソナル・アシスタンス とも
〒279002 千葉県浦安市今川 1-14-52
TEL:047-304-8808
FAX:047-304-8821

「療育」世代を超えて

ともの音楽療育を楽しむ利用者の方

私の娘には障がいがあります。生後7ヶ月くらいで障がいがあることがわかったのですが、彼女に発達の遅れや脳の障がいがあると言われても、母になったばかりの私には理解することが出来ませんでした。

その時の私は子どもの障がいを知った多くの親たちがするように、娘を「健常児にすること」を目指したのです。でも、すぐにそんな自分の考えに違和感を持つことになりました。

目の前でニコニコと笑う娘は何もわかっていない? 障がいがあったら成長しない? そんなわけはない。娘は自ら成長する力を持っていて、周りのことに興味を示し、何かをしたいという気持ちがその時々にはしっかり伝わってきました。

その頃から娘の成長や発達に本当に良いものはないだろうかと、私は手探りで情報を探し始めました。

まず「イルカスイミング」は池田先生の著書を見つけたのがきっかけです。実践を基に書かれた内容に感銘を受けた私は、すぐに池田先生に連絡をして指導をお願いし、ともの前身である「浦安共に歩む会」保護者のみんなと、イルカスイミングを浦安につくりました。

それから「ムーブメント療育」は、ボランティアに来てくれていた横浜国立大学の学生から、当時外国で行われていたムーブメント療法を日本に紹

介していた教授を紹介してもらったことがきっかけです。その教授がムーブメント療育の実践を行っている六郷土手のよいこの保育園に、娘を連れて月に2回通うことにしたのですが、娘が喜んでいる様子や成長していく姿を見て、「浦安共に歩む会」の仲間たちにも伝えたいと思い、教授や園長先生たちを始め多くの方々に協力を得ながら浦安でも行えるようにしました。

他にも、ともには音楽療法や造形教室など、いくつかの専門療育があります。どれも当時の私たち保護者が子どもへかける思いから始まっています。

とにかく元気に楽しく成長して欲しい。自分の中にある好奇心、得意なことを見つけてほしい。そうして楽しんでいると知らず知らずのうちに出来るが増えていきます。それはすべての療育が、専門性に基づいて行われているからだと考えます。

ともの療育のきっかけになった娘世代は、大人になってからも療育が余暇として繋がっていき、豊かな時間を過ごす事ができています。

いつの時代もこどもの幸せを願う親の気持ちは同じだと思います。この専門性に裏付けられた療育が、世代を超えて続くことを願っています。

理事長 西田良枝



ムーブメント療育は、こうやって体を動かし、遊びながら行えるよ！

ともの 療育 プログラム？

ともには、8つの専門的な療育プログラムがあります。
その中で、今回の号ではスイミング療育(ふありってプール・イルカスイミング)と
ムーブメント療育の2つをご紹介します！

ムーブメント療育って？

ムーブメント療育、皆さんイメージがつかますでしょうか。音楽や遊具、その場の環境を最大限に活用し、多様な動きや感覚刺激を通して、「からだ(動くこと)」と「あたま(考えること)」と「こころ(感じること)」の発達のバランスを整え成長を支えるプログラムです。子どもたちの心身の発達にとって、様々な動きや感覚を感じることはとても大切です。ムーブメントの代表的な遊具はパラシュートです。色もカラフルで気持ちが楽しくなります。乗ってみると、布に身をゆだねて体が揺れる感覚や、パラシュートが揺れておきる風を感じられます。また、パラシュートを上に投げて降りてくるときはカラフルな布がひらひらと舞い、見惚れてしまいます。身体に巻き付くとサラサラした質感を感じます。感覚が敏感すぎる子、感覚刺激が入りにくい子にとっても、ムーブメントは非常に有効です。1人1人のペースや特性に合わせて、自主性を尊重し少しずつ新しい動きや感覚に触れていくことができます。参加回数を重ねると、様々な動きが楽しく感じられるようになったり、感覚刺激が心地よくなっていき、気持ちが落ち着き、自発性が伸び、自ら活動に参加していく姿が多くみられる

ようになるのです。また、集団での活動なのでみんなで気持ちを共有することで、心の成長にとっても新たな学びにもつながります。

スイミング療育って？

スイミングは、ともの専門療育の中でも1番早くに始まった療育で、とものに歩む会の時代から長く続いている歴史の長いものです。スキンシップ水泳療育の提唱者である池田君子先生が講師を務めていて、障がいの有無や程度にかかわらず参加することができます。水の力は絶大で、身体の障がいがある方も、水の中では浮力を使って無理なく身体を動かすことができます。身体の緊張が減ることは、身体の状態維持にとっては非常に重要な意味があり、水の中は心地が良く、気持ちも開放的になります。なかなか気持ちの発散がうまくいかない人も、1人1人の状態に合わせて、先生が的確に指導してくれるので、だんだん身体がほぐれ、気持ちも落ち着き、心の安定につながっていくのがスイミングの魅力です。もちろん泳ぎの練習も行うので、少しずつ泳ぎが上達していくことは達成感にもつながるのです。スイミングは子どもから大人までどんな方にとっても、有効な療育です。

ボランティアの人たち！

順天堂大学は、浦安市に、医療看護学部がある浦安キャンパスと健康データサイエンス学部、医療科学部、薬学部がある浦安・日の出キャンパスがあります。「ともボランティアサークル」は、「パーソナルアシスタンス・とも」を活動の中心とするボランティアサークルです。「障害児通所支援事業所マリーナ」では、「小児ボランティアサークル」の学生も一緒に活動させていただいています。今回は、ボランティアに参加している学生たちの声をお届けしたいと思います。

1

ボランティア活動を通し、
自分の変化は何かありましたか？

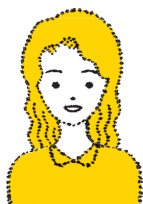


Wさん 男性

自分の言葉で表現すること、上手く伝えられなくて困っている子たちと接する中で、その子どもたちの表情やいつもと違うなという感じから気持ちを汲み取ることの大切さを学びました。前よりも視野が広がった気がします。

3

印象に残っていることは？



Hさん 女性

近くにいた子がカードを置こうとしていたので手伝おうとした時にスタッフの方が、「〇〇君は自分でできると思うから待ってね」とアドバイスしてくださり、はっとさせられた。普段看護の授業で患者さんの自立を促すことが大事とあれだけ勉強したのに、その機会を妨げてしまいそうになって反省した。こういう何気ない動作も子どもたちや患者さんにとっては自立や成長する機会なんだと、勉強になった。このエピソードから、大変そうにしている子がいてもすぐ手伝うのではなく、その子がやり遂げるためにはどういった声かけをするかや、やり続けるモチベーションを持ってもらうためにはどうすれば良いかをまず考えてみるのが大事だということに気づきました。

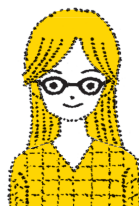
2

ボランティア活動を通し、
感じたことは？



Mさん 女性

最初は緊張してたけど、マリーナのみなさんが輪の中に招き入れてくれたことで、楽しく活動できました。子どもたちからの言葉がなくても、相手の行動をよく見ることで、ちゃんと気持ちが伝わると感じた瞬間でした。



Sさん 女性

ボランティア活動に関わる人々がたくさんいて、マリーナに通う子どもとその親、スタッフだけでなく、近隣の住民や私たち学生が協働して活動を行っています。地域全体がマリーナに通う子どもとスタッフを支え応援しているように感じます。活動に携わる私自身も「地域でともに生きていく」環境の中にいると感じることができました。この関係性が続けられるように頑張りたいと思います。



とも職員 女性

とも職員にも聞いてみた！

私がイルカスイミングのボランティアをしていたのは15年以上前です。あの時は高校生でした。運動公園のプールに行った時にイルカスイミングの活動を見て、直感的に楽しそう!!と思いました。先生のパワーに引き込まれるのと同時に、参加している方の楽しい雰囲気や熱量に圧倒されました。子供が好き、身体を動かすことが好きな私はすぐにボランティアに申し込みました。自閉傾向のある未就学児のお子さんと一緒にプールに入ると、発語の少ない子でうまくコミュニケーションが取れずショックでした。一緒にプールで楽しく過ごせるよう、その子が何を考え何を伝えたいのか知りたいと思いました。その経験が、子どもの発達、特にコミュニケーションを学びたいことに繋がり、言語聴覚士になりました。今でもたくさんの子どもたちと関わりながら、何を感じているかを意識しながら日々子どもたちとコミュニケーションしています。

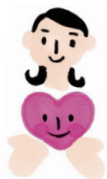
療育ってなんだろう？

現在、さまざまな事業所が放課後等デイサービスや日中一時支援など、それぞれ特色を持ったサービスを提供しています。事業所によっては、サービスをビジネスとしてマニュアル化し、そのトレーニングを受けたスタッフが、マニュアル通りに利用者さんの訓練をしているところもあります。しかし、それでその人らしく生きる力は育つのでしょうか。ともが目指しているのは、「その人らしく生きる」「地域でともに暮らす」ということ。それは、その人が

のびのびと自分の気持ちを表現・発散し、能力を活かし、その人なりに成長していくこと。その経験を家族や他の利用者さん、地域の人たちと共有し、一緒に楽しむということだと思います。そして、まさにそのことを実感できるのが、ともの療育事業だと思います。ともの療育事業は、公共の場をお借りして地域に開かれた形で実施しており、自宅ではできないような実体験ができることも魅力の一つです。ともの療育事業は長きに渡り、本当にたくさんの講師の方やボランティアの方々、利用者さんとそのご家族に支えられ、今日まで継続できています。



「とも」を支えてくださる方々



社会福祉法人パーソナル・アシスタンスともご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までと何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立たせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金
振込先

銀行名：京葉銀行 新浦安支店 口座番号：普通 5429331
口座名義：社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも
理事長 西田良枝

ご利用案内

【個別のケアサービス】

- パーソナルケアセンター
 - ・障害福祉サービス（居宅介護・重度訪問介護・行動援護）
 - ・介護保険サービス（訪問介護・介護予防訪問介護）
 - ・移動支援事業・浦安市通院ヘルプサービス事業
 - ・パーソナルケアサービス（制度外の支援）
 - ・介護保険外生活支援サービス
- パーソナル・アシスタンスとも居宅介護支援事業所【休止中】



【緊急時の宿泊も可能な支援】

- 浦安市障がい者等一時ケアセンター事業（指定管理者）



【子どもの発達支援】

- 障害児通所支援事業所 ふあり
（児童発達支援／放課後等デイサービス）
- 障害児通所支援事業所 マリーナ
（児童発達支援／放課後等デイサービス）



【日中一時支援事業】

- 日中一時支援事業所 マリーナテラス
- 日中一時支援事業所 とも



【様々な療育事業】

- イルカスイミングクラブ ●音楽療法 ●ムーブメント療育
- 卓球教室 ●造形教室 ●ダンスクラブ ●体操



【日中活動・就労・機能訓練・余暇等の支援】

- 浦安市斎場内売店運営
- 就労継続支援 B 型事業所とも
 - ・キッチンカフェほっぷ運営
 - ・カフェテラスゆう（浦安市老人福祉センター内カフェ）運営
- ハレリア 共同生活援助（グループホーム）



【訪問看護事業】

- 訪問看護ステーションとも



【生活支援のための相談】

- 『浦安市基幹相談支援センター』（浦安市より受託）
 - ・指定一般相談支援事業（千葉県指定）・指定特定相談支援事業（浦安市指定）・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）
- 「相談支援事業所ふあり」指定特定相談支援事業（浦安市指定）
- ・指定障害児相談支援事業（浦安市指定）



【福祉機器等の貸与・販売】

- 福祉用具のレンタルや販売、日生具、補装具など【休止中】

連絡先のご案内

事業名	電話番号	メールアドレス
●パーソナル・アシスタンス とも	047-304-8808 tomo@patomo.jp
●パーソナル・アシスタンス とも（予約専門）	047-304-8811	
●障害児通所支援事業所 ふあり	047-304-8860 tomo-huali1@patomo.jp
●障害児通所支援事業所 マリーナ	047-304-8815	
●相談支援事業所 ふあり	047-304-8860 tomo-huali2@patomo.jp
●日中一時支援事業所 マリーナテラス	047-304-8815	
●キッチンカフェほっぷ	047-304-8820	
●ハレリア 共同生活援助（グループホーム）	047-304-8808	
●浦安市基幹相談支援センター（相談窓口）	047-304-8822 tomo-soudan3@patomo.jp
●浦安市障がい者等一時ケアセンター	047-350-8771	
●訪問看護ステーションとも	047-304-8808	
●パーソナル・アシスタンスとも 福祉用具貸与販売事業所	070-5561-8808	



ボランティア随時募集

◆療育に関わるボランティア

イルカスイミングクラブ、生活塾、造形教室、体操教室、音楽療法、ムーブメント療育、ダンス教室
卓球教室のサポート

◆フリマ・イベントでのお手伝い、 ケアルームのおもちゃ消毒など

編集人：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンスとも
〒279-0022 千葉県浦安市今川 1-14-52

編集後記 療育事業にフォーカスした今号は、様々なボランティアの方に支えられているのが分かる内容になりました。これからも、ともの事業をお伝えできるように、丁寧な紙面造りを心がけていきます。

FAX 番号 047-304-8821

ホームページ www.patomo.jp